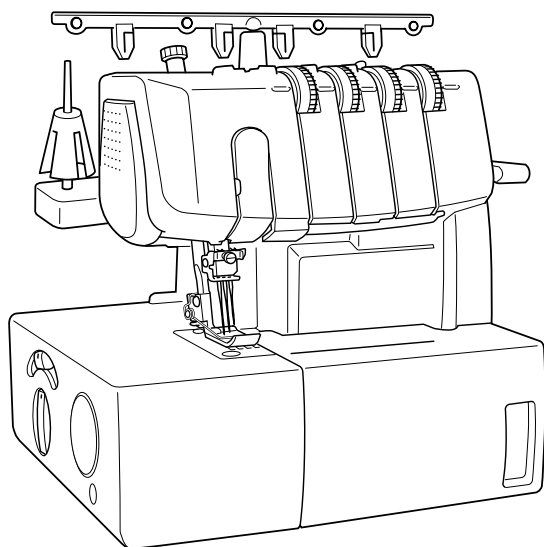
カバーステッチ専用ミシン取扱説明書

L0510シリーズ

目次

1. 各部の名称とはたらき 6
2. 糸を通す前の準備 12
3. 糸の通し方 14
針糸の通し方 14
ルーパー糸の通し方 15
4. 縫いの種類 16
トリプルカバーステッチ
（3本針4本糸カバーステッチ） 16
カバーステッチ
（2本針3本糸カバーステッチ） 17
チェーンステッチ
（1本針2本糸ダブルチェーンステッチ） 19
5. 縫い方（基本編） 20
6. 縫い方（応用編） 23
7. メンテナンス 26
8. 困ったとき 26
9. 仕様 27

● ご使用になる前に必ず取扱説明書をお読みになり、正しくお使いください。

● 取扱説明書はなくさないように大切に保管し、いつでも手にとって見られるようにしてください。

安全にお使いいただくために

取扱説明書および本製品で使われている表示や絵文字は、本製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
その表示や意味は次のとおりです。

	● この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
	● この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

取扱説明書で使用している絵文字の意味は次のとおりです。

 特定しない禁止事項

 分解してはいけません

 水に濡らしてはいけません

 特定しない義務行為

 電源プラグを抜いてください

 特定しない危険通告

 感電の危険があります

 火災の危険があります

 やけどの危険があります

本製品を安全にお使いいただくために、以下のことがらを守ってください。

警告

● 一般家庭用電源AC100Vの電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

● 以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。

- ミシンのそばを離れるとき
- ミシンを使用したあと
- 運転中に停電したとき
- 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
- 雷が鳴りはじめたとき

注意

● 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。

● 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

● 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り､必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。

● 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お近くの販売店または「ミシン 119 番」フリーダイヤル 0120-340-233 にご連絡ください。

● 長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。

● 直射日光の当たるところや、ストーブ、アイロンのそばなど温度の高いところでは使用しないでください。ミシンの使用温度は0～40℃です。ミシン内部の温度が上がったり、ミシン本体や電源コードの皮膜が溶けて火災・感電の原因となります。

● スプレー製品などをご使用の部屋では使用しないでください。スプレーへの引火によるやけどや火災の原因となります。

● ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下などしてケガをする原因となります。

● ミシン本体の換気口をふさがないでください。換気口は、必ず壁から 30cm 以上離してお使いください。また、換気口やフットコントローラーに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。火災の原因となります。

● ミシン本体の上に花びんや水の入った容器を置くなどして､ミシン本体に水をこぼさないでください。万一、内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店または「ミシン119番」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

注意

- 換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。高圧部に触れて感電のおそれがあります。万一、異物が入った場合は、使用をやめてお近くの販売店または「ミシン 119 番」フリーダイヤル 0120-340-233 にご連絡ください。

- ミシン本体の重さは約 7.0kg あります。ミシン本体を持ち運びする際は急激、または不用意な動作をしないでください。腰や膝を痛める原因となります。

- ミシン本体は、必ず本体上部裏側にあるハンドル部を持って持ち運びをしてください。他の部分を持つとこわれたりすべって落としたりして、ケガの原因となります。

- ミシン本体には取扱説明書に記載されている正規の部品を使用してください。他の部品を使用するとケガ・故障の原因となります。

- お客様ご自身での分解、修理および改造は行わないでください。火災・感電・ケガの原因となります。指定以外の内部の点検・調整・掃除・修理は、お近くの販売店または「ミシン 119 番」フリーダイヤル 0120-340-233 にご依頼ください。

- 取扱説明書に記載されている整備は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。ケガ・感電の原因となります。

- ミシン操作中は、針の動きに十分注意してください。また、針、プーリーなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。ケガの原因となります。

- 縫製中、布地を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。ケガ・針折れの原因となります。

- 針の下などに指を入れないでください。ケガをするおそれがあります。

- 上糸、下糸等に関する操作については、取扱説明書の指示に従って正しく行ってください。取り扱いを誤ると、縫製中に糸がらみ等が発生し、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。

- 万一、ミシン本体を落としたり、破損したり、故障したりした場合は、ただちに使用をやめてお近くの販売店または「ミシン 119 番」フリーダイヤル 0120-340-233 にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

注意

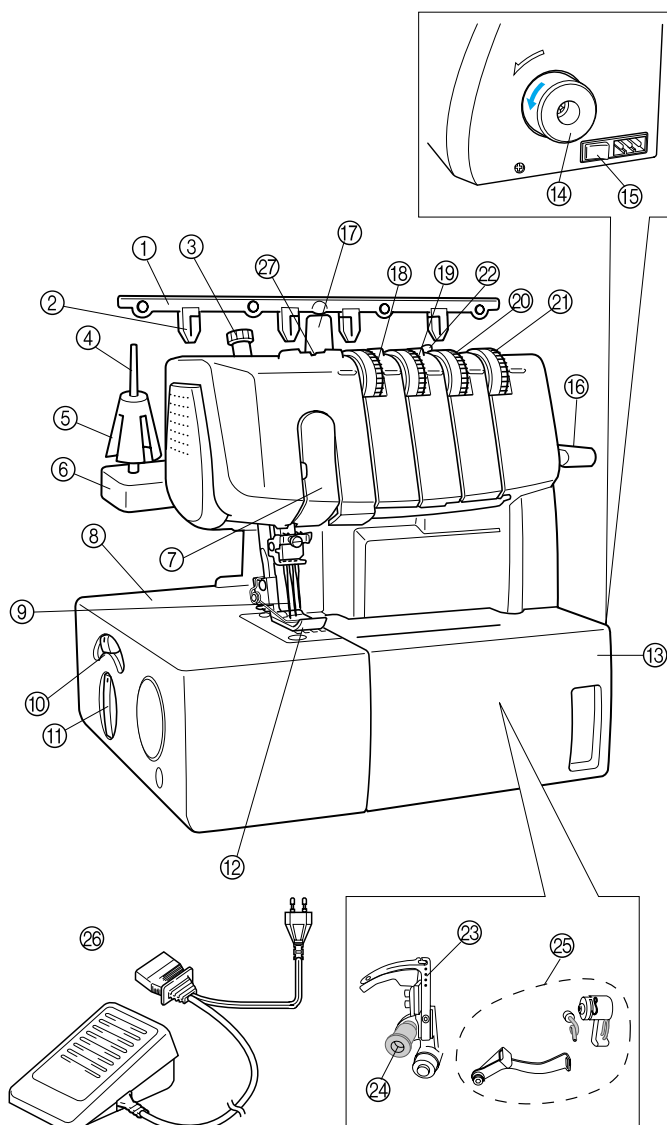
- 万一、煙が出ている、変な臭いがする、異常音がするなどの状態のときはすぐに電源プラグをコンセントから抜いて、お近くの販売店または「ミシン 1 1 9 番」フリーダイヤル 0120-340-233にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対に行わないでください。

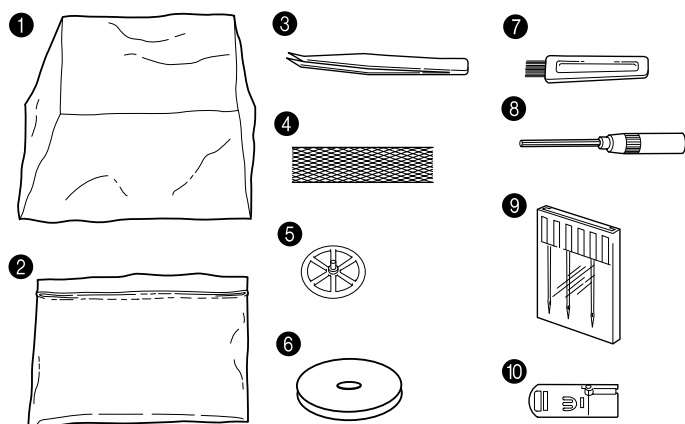
- ミシン本体が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか廃棄してください。かぶって遊ぶと窒息のおそれがあります。

- お子様の玩具として使用しないでください。お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用になるときは、お子様がケガをしないよう十分注意してください。

お願い

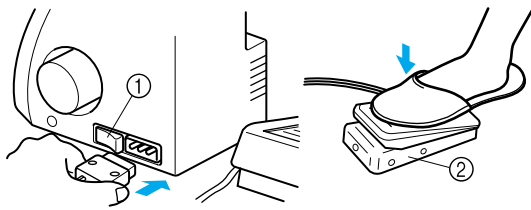
- このミシンは日本国内向け、家庭用です。外国では使用できません。
  This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.
- 仕様および外観は品質改良のため、予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 取扱説明書の内容を許可なく無断で複製することは禁じられておりますので、ご了承ください。
- 取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 取扱説明書の内容について、万一不審な点や誤りなどお気づきの点がありましたらご連絡ください。

1. 各部の名称とはたらき

① 糸かけ
② 整糸板
③ 押え圧調節ネジ
④ 糸たて棒
⑤ 糸こまクッション
⑥ 糸立て台
⑦ 針糸ガイド
⑧ テーブル
⑨ 針
⑩ 差動送り調節レバー
⑪ 送りピッチ調節ダイヤル
⑫ 押さえ
⑬ フロントカバー
⑭ プーリー
⑮ 電源スイッチ
⑯ 押え上げレバー
⑰ スプールスタンド
⑱ 左針用糸調子ダイヤル
⑲ 中央針用糸調子ダイヤル
⑳ 右針用糸調子ダイヤル
㉑ ルーパー用糸調子ダイヤル
㉒ ルーパー用丸型糸ガイド
㉓ ルーパー
㉔ ルーパー開放ツマミ
㉕ ルーパー糸用ガイド
㉖ コントローラー
㉗ ハンドル（上部裏側）

付属品となまえ

❶ ❷ ❸ ❹ ❺ ❻ ❼ ❽ ❾ ❿

❶ ミシンカバー	X77871000
❷ 付属品ケース	122991002
❸ ピンセット	X75902001
❹ ネット（4コ）	X75904000
❺ 糸こまキャップ（4コ）	X77260000
❻ 糸こまマット（4コ）	XB1218000
❼ ミシンブラシ	X75906001
❽ 針止めネジまわし	XB0393001
❾ ミシン針：シュメッツ ユニバーサル 130/705H 90/#14 3本	HS003U (XB1329001)
❿ LC1特殊押さえ	XB1265001

LC1特殊押さえは、別売品のアタッチメント等を使用する際に使います。

電源の入れ方とフットコントローラーの使い方

電源コードをつなぐ

- フットコントローラーの3Pプラグをミシン本体右下部にあるソケットに差し込み、電源プラグコンセントに差し込みます。

電源スイッチの入れ方

電源スイッチを「－」の方に押すと電源が入り、同時にランプが点灯します。スイッチを「○」の方にすると、電源が切れます。

① スイッチ

フットコントローラーの使い方

ペダルを軽く踏むと､ゆっくり縫えます。ペダルを強く踏むほど速くなります。ペダルを踏み込みをやめると止まります。

② コントローラー

電源に関する注意

電源について気をつけなければいけないことを説明します。

警告

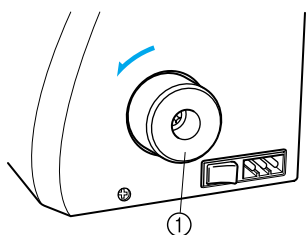
- **一般家庭用電源AC100Vの電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。**
- **以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。**
  - **ミシンのそばを離れるとき**
  - **ミシンを使用したあと**
  - **運転中に停電したとき**
  - **接触不良、断線などで正常に動作しないとき**
  - **雷が鳴りはじめたとき**

注意

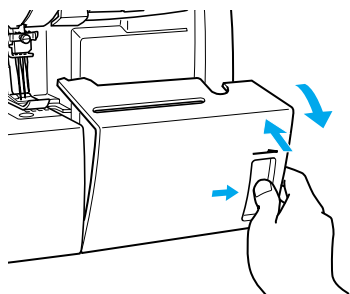
- **延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。**
- **濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。**
- **電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。**
- **電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お近くの販売店または「ミシン119番」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。**
- **長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。**

フットコントローラー

注意

- **フットコントローラーに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。火災・感電の原因となります。**
- **フットコントローラーの上に物を置かないでください。ケガ・故障の原因となります。**
- **長期間ご使用にならないときは、フットコントローラーのプラグをジャックから抜いてください。火災・感電の原因となります。**

プーリーの回転方向

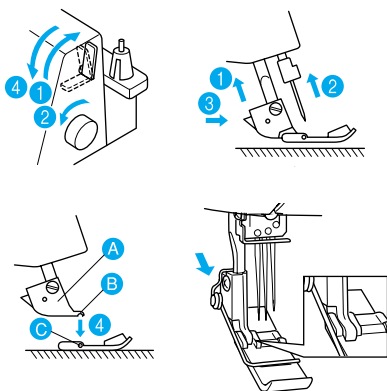
- プーリーの回転方向は家庭用ミシンと同じ方向に回転します。
  ① プーリー

フロントカバーの開け方、閉め方

ルーパー糸を通す際、フロントカバーを開ける必要があります。以下の方法で開けてください。

- フロントカバーを右にスライドさせて手前に引いてください。閉じる場合はフロントカバーを押し上げて閉めます。

注意

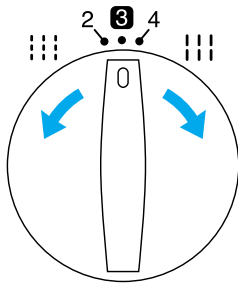
縫うときにはフロントカバーを必ず閉じてください。ケガ・故障の原因になります。

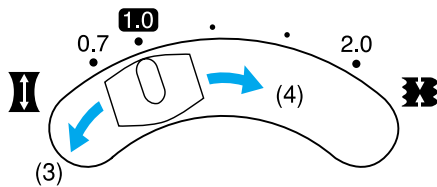
押さえの交換

- 電源を切ります。

(1) 押さえレバーを上げます。①
(2) プーリーを手前方向に回して、針を一番高い位置にします。②
(3) 押さえホルダーのボタンを押し、今付いている押さえをはずします。③ ④
(4) 押さえレバーを上げて、はずした押さえを取り出します。
(5) 交換したい押さえを押さえホルダー Ⓐの下に入れ、押さえホルダー下部のみぞⒷが押さえのピン Ⓒ に合うようにします。そして押さえレバーを下げ、押さえを取り付けます。

注意

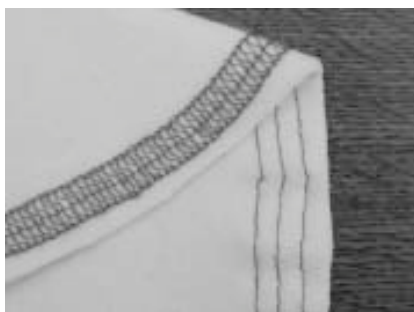
押さえ交換は必ず電源を切って行ってください。万一、フットコントローラーを踏まれるとミシンが作動してケガの原因となります。

送りピッチ（縫い目の長さ）の調節

送りピッチを変えるには以下の方法で行います。
(1) 本体左側にある送りピッチ調節ダイヤルを動かして調整します。
(2) 送りピッチ調節ダイヤルを手前に回すと、縫い目が長くなります（最大4mm）。後ろに回すと、縫い目が短くなります（最小2mm）。
(3) 通常は縫い目の長さを3～4mmの範囲で調整してください。

差動送りの調節

このミシンには差動送り装置がついています。差動送り装置は前後にそれぞれ送り歯があり、それぞれの布送り量を調整することにより、ニットやジャージ、トリコットなど伸びやすい生地や、逆に裏地のような縮みやすい生地を縫う時調整して、伸びや縮みを無くしながら布を送り、きれいに仕上げることができます。

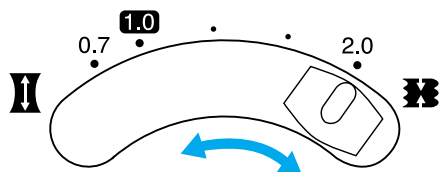
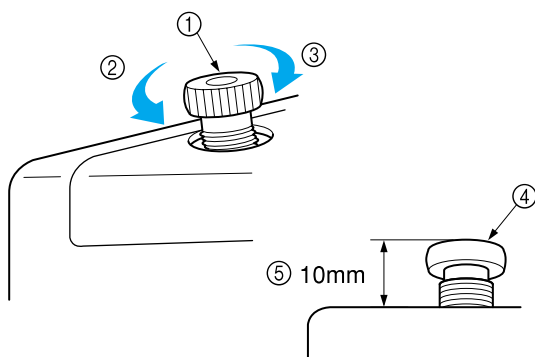
- 差動送りの調節の仕方

(1) 本体左側にある差動送り調節レバーで調整します。
(2) 普通縫いは差動送り調節レバーの値を1.0にします。この値で生地が伸びてしまったり、縮んでしまったりした場合は下記の表を参考に差動送りの値を調整してください。
(3) 1.0より小さな値にするには、レバーを後方に動かします。
(4) 1.0より大きな値にセットするには、レバーを前方に動かします。

差動送り調節の範囲(値)	後ろ送り歯の動き	前送り歯の動き	差動送りのはたらき	応用例
0.7～1.0			布を伸ばしながら縫います。	薄地などの縮み防止
1.0			普通に縫います。	普通の縫い
1.0～2.0			布を縮めながら縫います。	伸縮性のある布地の縫い伸び防止

- 差動送り調節が必要な例

伸縮性のある布を差動送り調節なしで縫うと、写真の様に布が波打って縫われてしまいます。

布地をもっと平らにきれいに縫うためにには、差動送りの値を1.0〜2.0の間で調節します。
（差動送り値は布地の伸縮性の程度に異なりますので上記範囲で適切な値に調整してください。）

注記：
ジーンズのような厚手で伸縮性のない布地を縫うときには、差動送り調節を使わないで下さい。布を傷める場合があります。

押さえ圧の調整

- 押さえ圧は、ミシンの上部にある押さえ圧調節ネジで調節することができます。工場出荷時にほとんど生地に合うよう調整されていますので、通常、調整する必要はありません。もし調整が必要な場合は、調節ネジを回して調整してください。

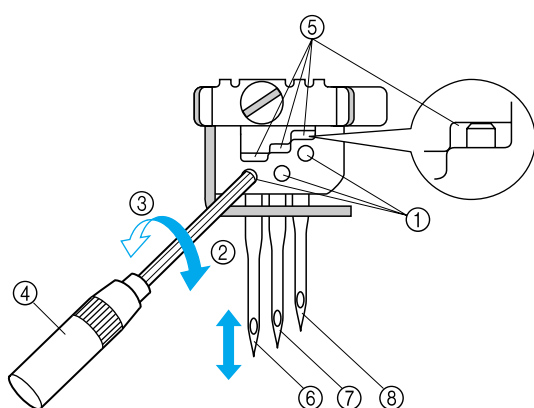
① 押さえ圧調節ネジ
② 弱くなる（薄地の場合）
③ 強くなる（厚地の場合）
④ 押さえ圧調節ネジ
⑤ 普通地を縫うときの高さ（調整ネジ後側、工場出荷値）

針の交換

針は必ず「シュメッツ ユニバーサル 130/705H 90/#14」または「シュメッツ ボールポイント 130/705H SUK 90/#14」<別売：HS003B (XB1330001)> をご使用ください。
上記以外の針は使用できません。

■ 布地と針の組み合わせ

布地の種類	針
通常の布地（普通地、薄地、厚地、伸びる布地）	シュメッツ ユニバーサル 130/705H 90/#14
スムースニットなど薄いニット地、地糸切れが発生した場合	シュメッツ ボールポイント 130/705H SUK 90/#14 <別売：HS003B (XB1330001)>

注記：
別売シュメッツ ボールポイント 130/705H SUK 90/#14を使用すると地糸切れの発生を低減することができます。

針の取り外し方
(1) 電源を切ります。
(2) プーリーを手で手前方向に回し、針を一番高い位置にします。
(3) 針止めネジまわしで針止めネジを緩め、針を取り外します。

針の取り付け方
(1) 電源を切ります。
(2) プーリーを手で手前方向に回し、針を一番高い位置にします。
(3) 針の平らな面を後ろ側に向けて、上方が完全につかえるまで針を差込みます。
(4) 針止めネジまわしで針止めネジを締めます。

① 針止めネジ
② しまる
③ ゆるむ
④ 針止めネジまわし
⑤ 確認窓
⑥ 左針
⑦ 中央針
⑧ 右針

確認：
各針の上にある確認窓から針が一番上まで差し込まれているか確認してから、針止めネジをしめてください。

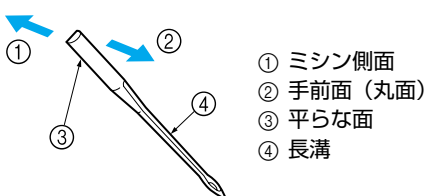
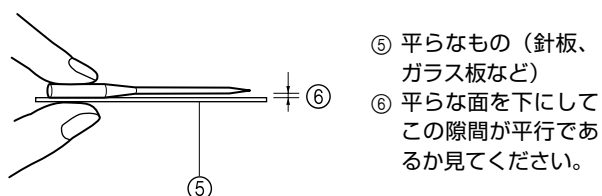
⚠ 注意

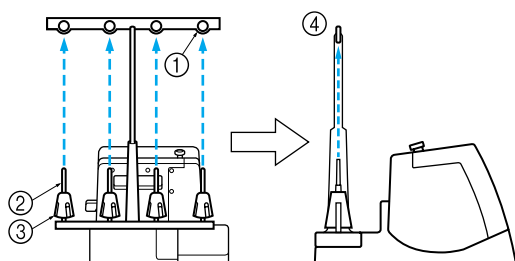
- **針取り外しの操作を行うときは、必ず電源を切ってから行ってください。万一、フットコントローラーを踏まれるとミシンが作動してケガの原因となります。**
- **針と針締めネジをミシンの中に落とさないよう注意して下さい。ミシン本体の故障の原因になります。**

針の説明

① ミシン側面
② 手前面（丸面）
③ 平らな面
④ 長溝

正しい針の調べ方

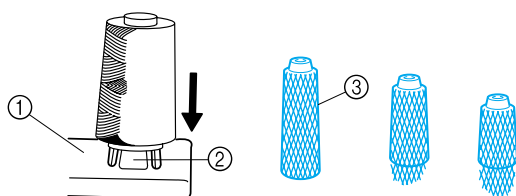
⑤ 平らなもの（針板、ガラス板など）
⑥ 平らな面を下にしてこの隙間が平行であるか見てください。

2. 糸を通す前の準備

糸かけを引き出す

糸かけを伸ばし、糸かけが、左の図のように、糸たて棒の真上にくるように位置を決めます。

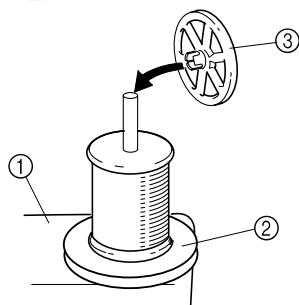
① 糸かけ
② 糸たて棒
③ 糸こまクッション
④ 正しい位置

糸こまをセットする

糸こまの形状によりセットの仕方が異なります。下記の図に従って正しく糸こまをセットしてください。

チーズ巻きタイプ

糸こまを糸こまクッション上から糸立て台につくまで押し込み、セットします。
もしウーリーナイロン糸やすべりやすい糸を使用する場合は、付属のネットを付けてお使い下さい。

① 糸立て台
② 糸こまクッション
③ ネット（図の様にネット上端と糸巻きの上端を合わせてください。）

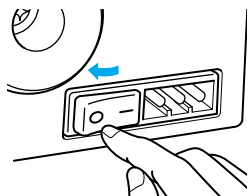
こま巻きタイプ

糸こまクッションを外し、糸こまマットを糸立て棒につけます。糸こまを糸止めみぞのあるほうを下にして糸立て棒にはめ、その上から糸こまキャップを奥いっぱいまで押し込み取り付けます。

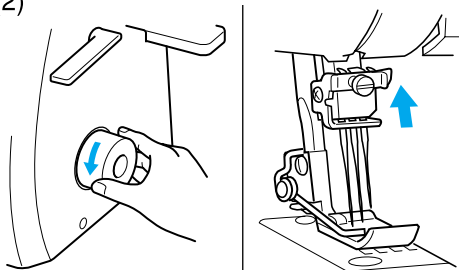
① 糸立て台
② 糸こまマット
③ 糸こまキャップ

⚠ 注意

チーズ巻きの場合は糸こまを糸立て台につくまで、こま巻きの場合は糸こまキャップを糸こまにつくように奥までいっぱいに押し込んでいないと、糸たて棒に糸がからまり、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

針を上げる

(1)

(1) 安全のために、電源を切ります。

(2)

(2) プーリーを手で手前方向にまわして、針が一番高い位置になるようにします。

3. 糸の通し方

針糸の通し方

＜ポイント＞

- 図のように、それぞれの糸を③③❸から④④❹に通します。
- ③③❸金属製糸ガイド
- ④④❹に糸を通すときは糸調開放レバーを矢印の方へ押したまま、糸調子調節ダイヤル内にある糸調子皿に糸を通します。

Ⓕ 糸調子皿
Ⓖ 糸調子開放レバー

注意

糸通しをする場合は必ず電源を切って行ってください。万一、フットコントローラーを踏まれるとミシンが作動してケガの原因となります。

(1) それぞれの針に糸を通す方法は以下の手順に従って行います。

左針に糸を通す

- 左下の図の①-⑨の順に糸を通します。（ミシン本体に黄色のラインと番号で印刷されているところを通します。）③-④に糸を通すときは、囲み図＜ポイント＞をよくお読みの上、通してください。

中央針に糸を通す

- 左下の図の①-⑨の順に糸を通します。（ミシン本体にピンクのラインと番号で印刷されているところを通します。）③-④に糸を通すときは、囲み図＜ポイント＞をよくお読みの上、通してください。

右針に糸を通す

- 左下の図の❶-❾の順に糸を通します。（ミシン本体に緑色のラインと番号で印刷されているところを通します。）❸-❹に糸を通すときは、囲み図＜ポイント＞をよくお読みの上、通してください。

注記：
複数の針に糸を通すときは、必ず左針、中央針、右針の順で糸を通してください。

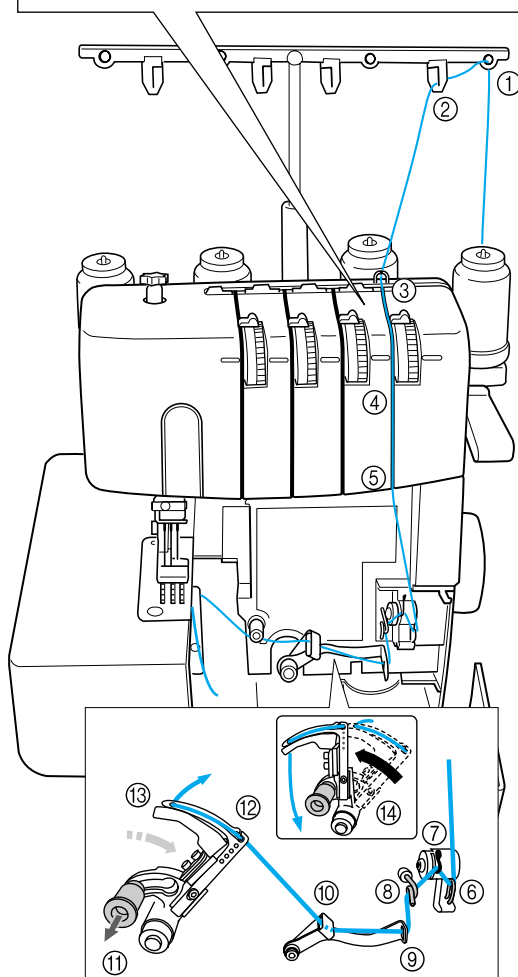
Ⓐ 左針糸は、糸案内板の左側に通します。
Ⓑ 中央針糸は、糸案内板の左側に通します。
Ⓒ 右針糸は、糸案内板の右側に通します。
Ⓓ 糸案内板
Ⓔ 針穴から糸を約6cmほど図Ⓕのように引き出しておきます。
⑨⑨❾ 針穴には前から後ろに向かって糸を通します。

ルーパー糸の通し方

<ポイント>

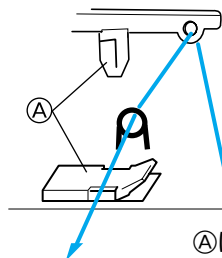
- 図のように、それぞれの糸を③から④に通します。
- ③丸型糸ガイドと金属製糸ガイド
- ④に糸を通すときは糸調開放レバーを矢印の方へ押したまま、糸調子調節ダイヤル内にある糸調子皿に糸を通します。

Ⓐ 糸調子皿
Ⓑ 糸調子開放レバー

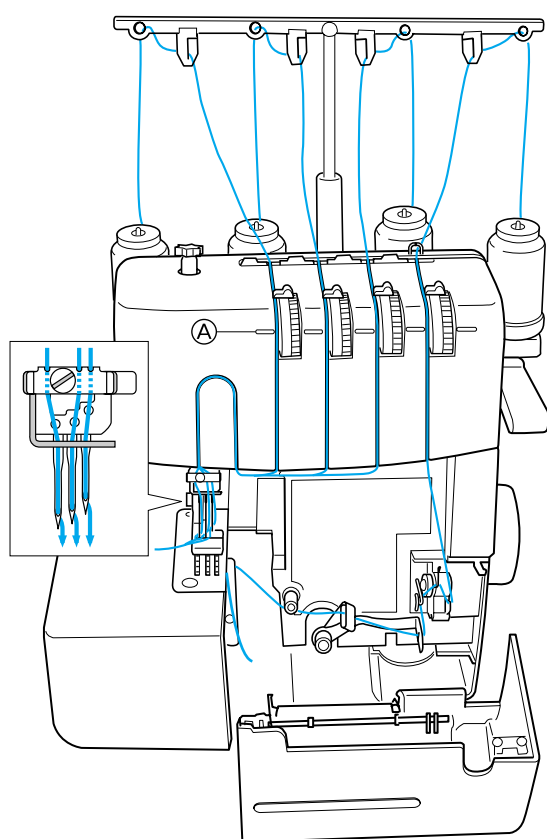
注意

糸通しをする場合は必ず電源を切って行ってください。万一、フットコントローラーを踏まれるとミシンが作動してケガの原因となります。

(1) ルーパーに糸を通す方法は以下の手順に従って行います。

1. フロントカバーを右方向にスライドさせ、手前に倒して開きます。
2. はじめに左下の図の①-⑩まで順番に糸を通します。（ミシン本体に青色のラインと番号で印刷されているところを通します。）③-④に糸を通すときは、囲み図<ポイント>をよくお読みの上、通してください。
3. ⑩まで糸をかけたら、⑪ルーパー開放ツマミを引きルーパーを倒し、⑫と⑬に糸をかけます。
4. ルーパーの針穴から約10cmほど糸を引き出し、ルーパーの後ろ側にたらしておきます。
5. 図⑭のように、ルーパーを矢印の方向にロックされるまで押し込みます。
6. フロントカバーを閉じます。

注記：
飾り縫いなどでルーパー糸に太い糸を使う場合、以下の図のように糸をかけます。

Ⓐには糸を通しません。

4. 縫いの種類

トリプルカバーステッチ（3本針4本糸カバーステッチ）

トリプルカバーステッチは4本の糸、3本の針とルーパーを使い、6mm幅の表面は3本の直線縫いになる縫い目です。
この縫い目は、裾始末、ゴム入れ等に適しています。
またルーパー糸に飾り糸を使い飾り縫いも楽しめます。

糸通し

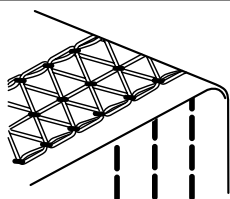
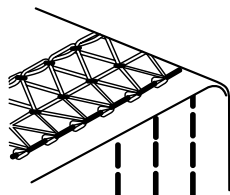
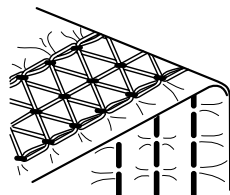
- それぞれの針、ルーパーに糸を通す方法については、P14～15ページの「3. 糸の通し方」を参照してください。
  < 左針、中央針、右針に糸を通します。>
  < ルーパーに糸を通します。>

糸調子の合わせ方

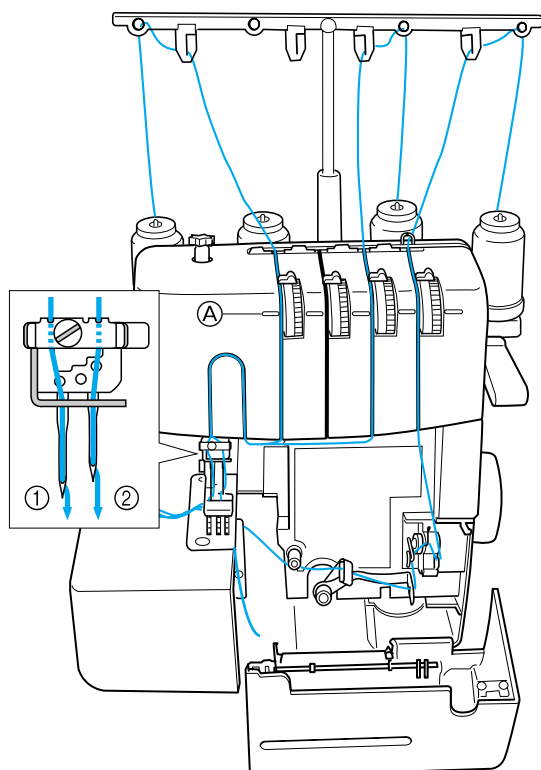
(1) はじめに各糸調子調節ダイヤルの数字を下記の値に合わせます。
Ⓐ 糸調子ダイヤル数字合わせ位置

左針ダイヤル（黄色）	中央針ダイヤル（ピンク）
4	4
右針ダイヤル（緑色）	**ルーパー用ダイヤル（青色）**
4	4

注記：
各糸が各ダイヤル内の糸調子皿に確実に入っている事を確認してください。もし入っていない場合はそれぞれの糸調子開放レバーを右方向に押しながら糸調子皿に糸を入れて通してください。

(2) 試し縫いをします（P20「5. 縫い方」を参照してください）。
(3) 縫い目の状態により、下記の表に従い、各糸の糸調子を調節します。

正しい糸調子
表側に見える針糸はまっすぐな3本の直線縫いとなり、裏側のルーパー糸はループがジグザグになっています。

針糸がゆるい場合
針糸調子ダイヤルを下方向に回し、ダイヤルの値をより大きな数字にして針糸調子を強くする。
またはルーパー糸調子ダイヤルを上方向に回し、ダイヤルの値をより小さい数字にしてゆるめます。

針糸が強い場合
針糸調子ダイヤルを上方向に回し、ダイヤルの値をより小さい数字にして針糸調子をゆるくする。
または、ルーパー糸調子ダイヤルを下方向に回し、ダイヤルの値をより大きな数字にして針糸調子を強くします。

カバーステッチ（2本針3本糸カバーステッチ）

6mm幅カバーステッチ

カバーステッチは3本の糸、2本の針とルーパーを使い、6mm幅または3mm幅で表面は2本の直線縫いになる縫い目です。
この縫い目は、既製服の裾や袖口に良く使われています。裾始末以外にもゴム入れ等の縫い方にも適しています。またルーパー糸に飾り糸を使い飾り縫いも楽しめます。

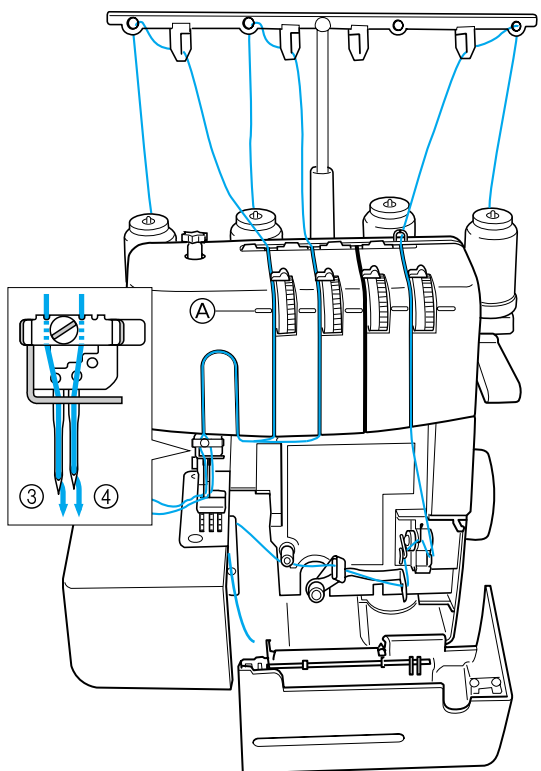
針のセットと糸通し

- 左針と右針の2本をミシンにセットします。針の付け方、外し方については、P11「針の交換」を参照してください。
  ① 左針
  ② 右針

重要！
使用しない針（中針）は必ず抜き、針止めネジをしっかり締めてください。ネジを締めていないとミシンを操作中などにネジが紛失してしまうことがあります。

- それぞれの針、ルーパーに糸を通す方法については、P14～15の「3. 糸の通し方」を参照してください。

  < 左針、右針に糸を通します。>
  < ルーパーに糸を通します。>

3mm幅カバーステッチ

針のセットと糸通し

- 左針と中央針の2本をミシンにセットします。針の付け方、外し方については、P11「針の交換」を参照してください。
  ③ 左針
  ④ 中央針

重要！
使用しない針（右針）は必ず抜き、針止めネジをしっかり締めてください。ネジを締めていないとミシンを操作中などにネジが紛失してしまうことがあります。

- それぞれの針、ルーパーに糸を通す方法については、P14～15の「3. 糸の通し方」を参照してください。

  < 左針、中央針に糸を通します。>
  < ルーパーに糸を通します。>

糸調子の合わせ方

(1) はじめに各糸調子調節ダイヤルの数字を下記の値に合わせます。

Ⓐ 糸調子ダイヤル数字合わせ位置

6mm幅の場合

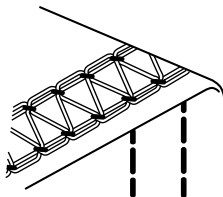
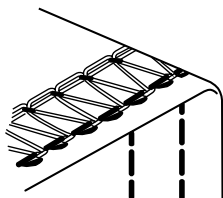
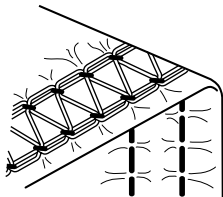
左針ダイヤル（黄色）	**中央針ダイヤル（ピンク）**
4	**-**
右針ダイヤル（緑色）	**ルーパー用ダイヤル（青色）**
4	**4**

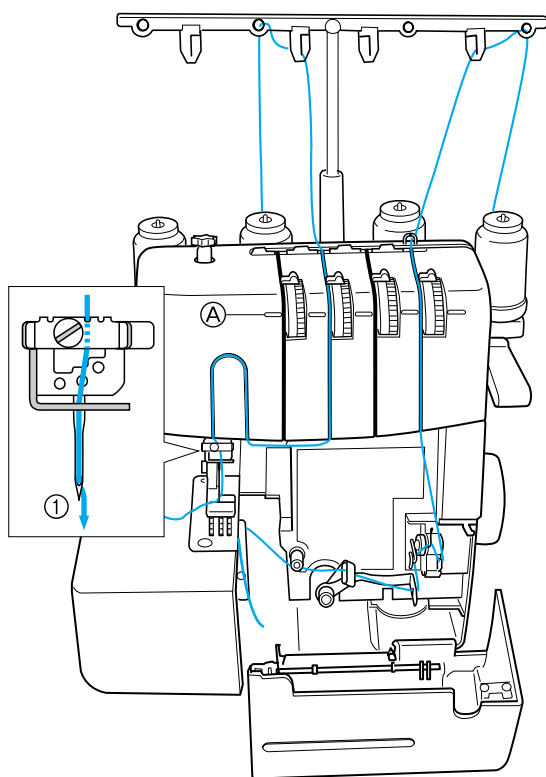
3mm幅の場合

左針ダイヤル（黄色）	**中央針ダイヤル（ピンク）**
4	**4**
右針ダイヤル（緑色）	**ルーパー用ダイヤル（青色）**
-	**4**

注記：
各糸が各ダイヤル内の糸調子皿に確実に入っている事を確認してください。もし入っていない場合はそれぞれの糸調子開放レバーを右方向に押しながら糸調子皿に糸を入れて通してください。

(2) 試し縫いをします（P20「5. 縫い方」を参照してください）。

(3) 縫い目の状態により、下記の表に従い、各糸の糸調子を調節します。

正しい糸調子
表側に見える針糸はまっすぐな2本の直線縫いとなり、裏側のルーパー糸はループがジグザグになっています。

針糸がゆるい場合
針糸調子ダイヤルを下方向に回し、ダイヤルの値をより大きな数字にして針糸調子を強くする。またはルーパー糸調子ダイヤルを上方向に回し、ダイヤルの値をより小さい数字にしてゆるめます。

針糸が強い場合
針糸調子ダイヤルを上方向に回し、ダイヤルの値をより小さい数字にして針糸調子をゆるくする。または、ルーパー糸調子ダイヤルを下方向に回し、ダイヤルの値をより大きな数字にして針糸調子を強くします。

チェーンステッチ（1本針2本糸ダブルチェーンステッチ）

チェーンステッチは2本の糸、１本の針とルーパーを使い、表面が1本の直線縫いになる縫い目です。ゴム付け、ニット地などの縫い合わせ、バイアステープ、テープ付けなどに適した縫い目です。またチェーンステッチは二重環縫いとも言われています。

針のセットと糸通し

- 中央針をミシンにセットします。針の付け方、外し方については、P11「針の交換」を参照してください。

  ① 中央針

重要！
使用しない針（左針、右針）は必ず抜き、針止めネジをしっかり締めてください。ネジを締めていないとミシンを操作中などにネジが紛失してしまうことがあります。

- それぞれの針、ルーパーに糸を通す方法については、P14～15の「3. 糸の通し方」を参照してください。
  < 中央針に糸を通します。>
  < ルーパーに糸を通します。>

糸調子の合わせ方

(1) はじめに各糸調子調節ダイヤルの数字を下記の値に合わせます。

Ⓐ 糸調子ダイヤル数字合わせ位置

左針ダイヤル（黄色）	中央針ダイヤル（ピンク）
-	2
右針ダイヤル（緑色）	**ルーパー用ダイヤル（青色）**
-	5

注記：
各糸が各ダイヤル内の糸調子皿に確実に入っている事を確認してください。もし入っていない場合はそれぞれの糸調子開放レバーを右方向に押しながら糸調子皿に糸を入れて通してください。

(2) 試し縫いをします（P20「5. 縫い方」を参照してください）。

(3) 縫い目の状態により、下記の表に従い、各糸の糸調子を調節します。

正しい糸調子
表側に見える針糸はまっすぐな1本の直線縫いとなり、裏側のルーパー糸はループが連続して並んでいます。

針糸がゆるい場合
針糸調子ダイヤルを下方向に回し、ダイヤルの値をより大きな数字にして針糸調子を強くする。またはルーパー糸調子ダイヤルを上方向に回し、ダイヤルの値をより小さい数字にしてゆるめます。

針糸が強い場合
針糸調子ダイヤルを上方向に回し、ダイヤルの値をより小さい数字にして針糸調子をゆるくする。または、ルーパー糸調子ダイヤルを下方向に回し、ダイヤルの値をより大きな数字にして針糸調子を強くします。

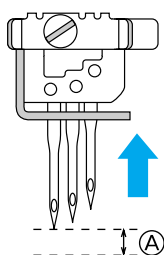
5. 縫い方（基本編）

試し縫い

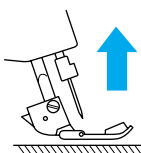
(1) 押さえを上げ、針落ち位置に布を置きます。

(2) 押さえを下げ、手でプーリーを手前に数回まわし、フットコントローラーをゆっくり踏んでスタートします。

ヒント：
糸通し直後は、押さえの上側に針糸があるため、プーリーを回したとき、その糸が押さえに巻き込まれながら縫われます。糸が長すぎるなど必要があれば、左の写真の様に余分な糸をはさみで切ってください。

布のはずし方

(1) 針が一番高い位置になるように、手で手前方向にプーリーをまわします。
Ⓐ この間隔が一番広い位置にします。

(2) 押さえを上げます。

(3)

(3) 写真のように、針元後ろの布を手でしっかり持ち、ミシンにかかっている糸すべての糸調子開放レバーを右方向に押して糸調子皿を開きます。

注記：

- **必ず布だけを持ってください。縫い目は持たないでください。**
- **布を持つときは、ランプが熱くなっていますのでご注意ください。**

(4)

(4) 糸調子皿を開いた状態のまま、布を矢印の方向にゆっくり引き、糸を引き出します。

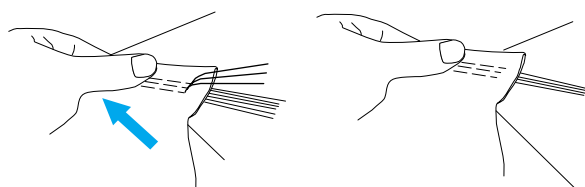
注記：
布は、必ず真後ろに引いてください。

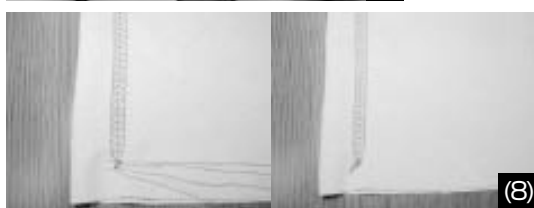
(5)

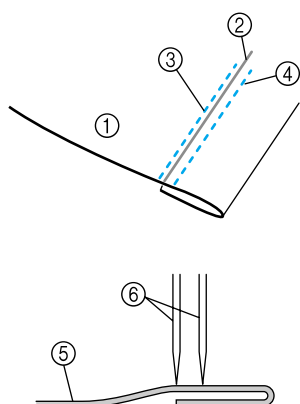
(5) 布を手元に移動し、布の上面から出ている引き出された針糸をはさみで切ります。

(6)

(6) 再度、写真のように布を矢印のほうにゆっくり引きます。そうすると下の図のように、布上面から出ている余分な針糸が生地の下側に引き込まれます。

(7)

(7) 余分な針糸が生地の下側に引き込まれたら、手元に布を移動し、糸がゆるんでいる状態でルーパー糸を切ります。

(8)

(8) 布を裏側からすべての糸が出ていますので、布を整えてから、その糸を結び余分な糸をはさみで切ります。

カバーステッチの裾引き縫いの仕方

(1) はじめに布を何センチ折り曲げて縫うかを決めます。
(2) 布を決めた分だけ内側に折り曲げて、アイロンをかけます。
(3) 内側に折り曲げた布端が布の表側からわかるように、折り曲げた布端がくる位置に布の表側に定規を使い、チャコなどで印を引きます。
(4) 布の表側に引いた印を左針落ち位置に合わせ布を置き、押さえを下げます。
(5) 印の上をはずれないように縫います。
(6) 縫い終わったら、P20「5. 縫い方」の章の「布のはずし方」に従って布をはずし、糸の始末を行ってください。

① 布の表側
② チャコなどで描かれた印
③ 左針の縫い位置（印の上）
④ 右針の縫い位置
⑤ 布
⑥ 針

筒ものの裾引き縫いの仕方 (袖口など、ストレッチパンツ、Tシャツの裾など)

(1)

- 縫う前にP22「カバーステッチの裾引き縫いの仕方」に従って縫う位置の印をつけておきます。縫い方も同じ要領で縫います。

(1) 押さえを上げ、写真のように布を左針落ち位置が印の上にくるように布を置き、押さえを下げて縫い始めます。

(2)

(2) 縫い始めと縫い終わりを4cmほど重ねて縫います。

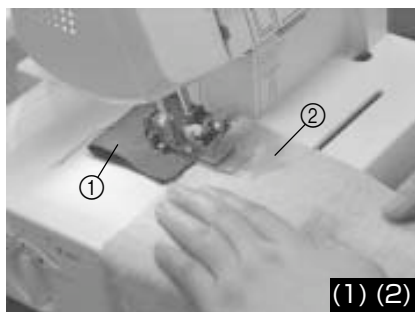
テクニック：
筒ものを縫った場合、縫い始めと縫い終わりを重ね縫っているので、糸を結ぶ必要はありません。（直線ミシンの返し縫いと同じ効果になります。）

(3) P20「5. 縫い方（基本編）」の「布のはずし方」、またはP23「縫い方（応用編）」の「糸始末に糸を結ぶ必要がない場合の布のはずし方」の手順に従って、布をミシンからはずします。

6. 縫い方（応用編）

縫い始めと縫い終わりの布端を安定させて縫いたい場合

(1) (2)

(3)

生地の縫い始めと縫い終わりを安定させて縫いたい場合には、以下の説明のように4cm四方の捨て布を縫い始めと縫い終わりに使って縫い上げます。

縫い始め

(1) 押さえを上げ、捨て布を入れます。押さえを下げ、手でプーリーを手前に数回まわしてから、フットコントローラーをゆっくり踏んでスタートします。
① 捨て布

(2) 捨て布の縫い終わり近くまで縫い、ミシンを止めます。次に写真のように生地を入れて、フットコントローラーをゆっくり踏んでスタートします。
② 生地

縫い終わり

(3) 生地の縫い終わり近くまで縫い、ミシンを止めます。次に写真のように捨て布を入れて縫い上げます。

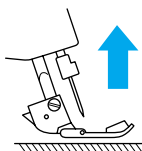
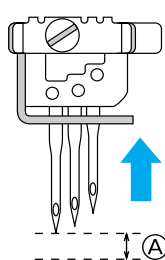
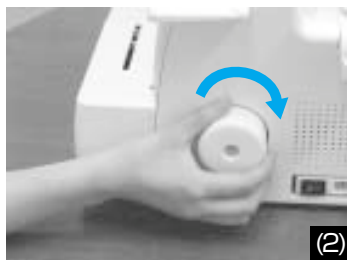
(4) 捨て布まで縫い、ミシンを止めて、捨て布と生地の間の糸をはさみで切ります。

糸始末に糸を結ぶ必要がない場合の布のはずし方

(1)

糸始末に糸を結ぶ必要がない場合（捨て布や生地の途中など）以下の手順で布をミシンからはずします。

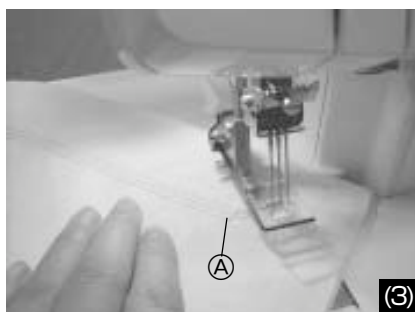
(1) 押さえを上げます。

(2)

(2) プーリーを手で矢印の方向（逆回転方向）まわし、針を一番高い位置に合わせます。
Ⓐ この間隔が一番広くなる位置にします。

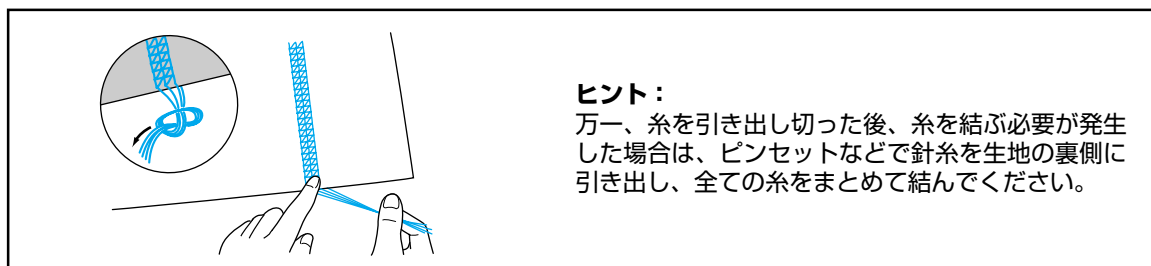
注記：
ミシンを止めたとき、針が一番高い位置になっていても、必ず矢印の方向（逆回転方向）に手でプーリーを１回まわしてください。

(3)

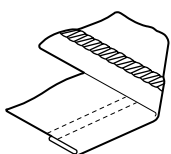
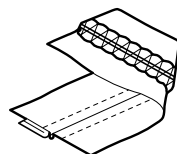
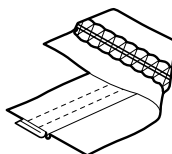
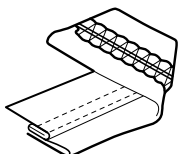
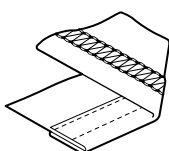
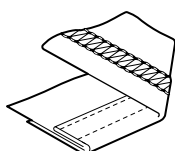
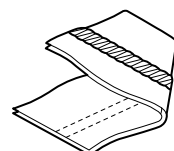
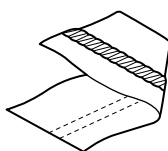
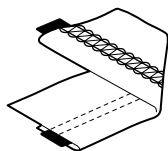
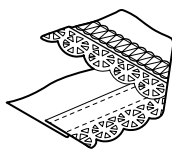
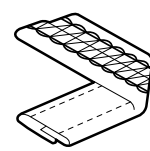
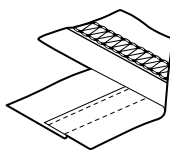
(3) ゆっくりと布を押さえの下からはずします。

注記：
必ず縫い終わりの縫い目が、写真Aの位置（押さえから少しでるぐらい）で止めてください。この位置から無理に布を引き出すと縫い目がほどけます。

(4) 縫い終わりの目を指でしっかりつまみ、写真のようにミシンにかかっている糸すべての糸調子開放レバーを右方向に押して糸調子皿を開きます。

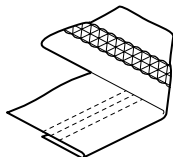
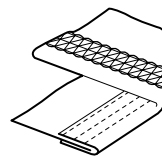
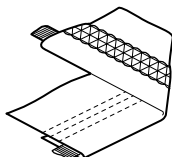
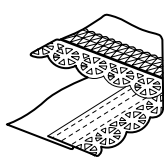
注記：
縫い目をつまむときは、ランプが熱くなっていますのでご注意ください。

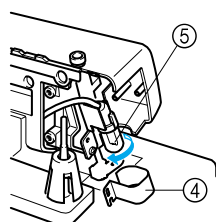
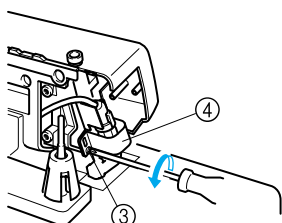
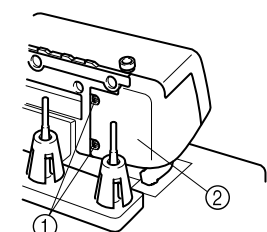
(5) 糸調子皿を開いた状態のまま、布を矢印の方向にゆっくり糸を引き出し、すべての糸をはさみで切ります。

ヒント：
万一、糸を引き出し切った後、糸を結ぶ必要が発生した場合は、ピンセットなどで針糸を生地の裏側に引き出し、全ての糸をまとめて結んでください。

カバーステッチ（2本針3本糸カバーステッチ）縫い方例

1) Tシャツの裾、袖口などの
裾引き縫い

2) トレーナーのリブ、肩口などの押さえミシン

3) テープ付け縫い

4) 飾り縫い

5) ゴムテープ付け縫い

6) レース付け縫い

7) ベルトループ

トリプルカバーステッチ（3本針4本糸カバーステッチ）縫い方例

1) 飾り縫い

2) Tシャツの裾、袖口などの
裾引き縫い

3) テープ付け縫い

4) ゴムテープ付け縫い

5) ゴムレース付け縫い

7. メンテナンス

ランプの交換

注意

ランプを交換する前に、必ず電源を切ってください。万一、フットコントローラーを踏むとミシンが作動してケガの原因となります。
ランプの交換は必ずランプが冷えるまで待ってから交換してください。やけどの原因となります。

ランプの交換は以下の手順で行います。

- 締めネジ2個をゆるめて、ランプカバーをはずします。
- 電球カバーのネジを緩め、電球カバーをはずします。
- ランプをはずし、新しいランプに取り替えます。

① 締めネジ
② ランプカバー
③ ネジ
④ 電球カバー
⑤ ランプ（100V/12W）
（部品コード：202322050）
※ ランプ(100V/12W)は最寄りのブラザー販売店でお買い求めください。

8. 困ったとき

ミシンが思い通りに動かないときは、修理を依頼される前に以下の項目を確認してください。それでも改善されない場合は、お買い上げの販売店または「ミシン119番」（フリーダイヤル 0120-340-233）にご相談ください。

こんなときは	原　因	対　応	参照ページ
ミシンが動かない	電源プラグがコンセントから抜けている。	電源プラグをコンセントに差します。	P.7
	電源スイッチが入っていない。	電源スイッチを入れます。	P.7
針が折れる	針が正しく取り付けられていない。	針を正しく取り付けます。	P.11
	針が曲がっている。 針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P.11
	布を無理に引っ張っている。	縫いながら布を強く押さえたり、引っ張ったりしないでください。	−

こんなとき	原　因	対　応	参照ページ
糸が切れる	糸の通し方が間違っている。	正しく糸を通し直します。	P.14, 15
	糸が必要以外のところにからんでいる。	糸こま、糸かけ、押さえなどに糸がからんでいないか確認します。	P.6, 14, 15
	糸調子が強すぎる。	糸調子を弱くします。	P.16, 18, 19
	針が正しく取り付けられていない。	針を正しく取り付けます。	P.11
	針が曲がっている。 針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P.11
糸調子が合わない	糸の通し方が間違っている。	正しく糸を通し直します。	P.14, 15
	針が正しく取り付けられていない。	針を正しく取り付けます。	P.14, 15
	針が曲がっている。 針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P.11
	糸調子が合っていない。	針糸またはルーパー糸の糸調子を調整します。	P.16, 18, 19
目飛びする	糸の通し方が間違っている。	正しく糸を通し直します。	P.14, 15
	針が正しく取り付けられていない。	針を正しく取り付けます。	P.11
	針が曲がっている。 針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P.11
	糸調子が合っていない。	針糸またはルーパー糸の糸調子を調整します。	P.16, 18, 19
布にしわがよる	糸調子が合っていない。	針糸またはルーパー糸の糸調子を調整します。	P.16, 18, 19

9. 仕様

縫い目の種類
チェーンステッチ（1本針2本糸2重環縫い）
カバーステッチ（２本針３本糸カバーステッチ：幅6mmまたは3mm）
トリプルカバーステッチ（3本針4本糸カバーステッチ：幅6mm）

縫製速度
毎分1,200針

縫い目の長さ
2～4mm

押さえ
自由押さえ

押さえ上がり量（2段階）
5mm（2段階目6mm）

使用針
シュメッツ ユニバーサル 130/705H 90/#14
または
シュメッツ ボールポイント 130/705H SUK 90/#14

ミシンの重さ
7.0kg

照明ランプ
100V　12W

アフターサービス

● お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は大切に保管してください。
● 無料修理保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
詳しくは保証書をご覧ください。
それ以後の修理については、お買い上げの販売店、または最寄りのブラザー販売店にご相談ください。
● 当社はこのミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り後最低8年保有しています。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
● アフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店、または下記の《お客様相談室》へお問い合わせください。

ミシン119番　フリーダイヤル0120-340-233

◎ ブラザーミシンの使い方やアフターサービスについて、ご不明の場合はお買い上げの販売店、またはミシン119番までお問い合わせください。
◎ ミシン119番ではミシンの使い方のご説明や、トラブルに対するご相談、修理の受付対応をさせていただいております。

お客様相談室

ブラザー販売株式会社

本　社	お客様相談室	〒467-8577	名古屋市瑞穂区苗代町15番1号	TEL：(052)824-3125 FAX：(052)824-3031
北海道	お客様相談室	〒060-0063	札幌市中央区南三条西3丁目2-2	TEL：(011)261-6631
東　北	お客様相談室	〒980-0811	仙台市青葉区一番町2-3-10	TEL：(022)227-8877
東　京	お客様相談室	〒104-0031	東京都中央区京橋3丁目3-8	TEL：(03)3281-4204
中　部	お客様相談室	〒467-8577	名古屋市瑞穂区苗代町15番1号	TEL：(052)824-3193
関　西	お客様相談室	〒550-0012	大阪市西区立売堀4丁目4番2号	TEL：(06)6531-4670
中四国	お客様相談室	〒730-0021	広島市中区胡町4番28号	TEL：(082)240-3762
九　州	お客様相談室	〒812-0011	福岡市博多区博多駅前2丁目3-12	TEL：(092)431-6566

● ブラザー製品についてのご意見、ご要望がございましたら、お買い上げの販売店または上記の《お客様相談室》へご連絡ください。
● 最寄りのお客様相談室におかけになったすべての電話は、本社お客様相談室へ転送されますが、転送電話料金は、弊社が負担致します。
● FAXの場合は、すべて本社お客様相談室でお受け致します。
● 上記の電話・FAX番号および住所は、都合により変更する場合がありますのでご了承ください。

ブラザー工業株式会社

取扱店

名古屋市瑞穂区苗代町15-1　〒467-8561

116-510
XB1292001
0312
Printed in Taiwan